



がん患者さんの治療と生活をつなぐ
NPO法人キャンサーリボンズ



NPO法人キャンサーリボンズ×P&Gパンテーン 『キレイの力』プロジェクト

女性がん患者さんに医療用ウィッグを贈る日本初の新しい支えあいの形です。

がん治療に伴う脱毛は身体的症状にとどまらず、精神的にも計り知れないダメージとなります。「人に会いたくない」「職場に行けない」「子どもの学校に行けない」…など、生活に及ぼす影響は大きく、だからこそ、がん治療中も自分らしくキレイでいたい女性は多いのです。

NPO法人キャンサーリボンズとP&Gパンテーンは共同で、2008年秋より、看護学生から髪の毛の寄付を募ってウィッグを作り、がん患者さんにお届けする日本初の活動に取り組んでいます。私たちの呼びかけに応えたのは聖路加看護大学、聖マリアンナ医科大学看護専門学校、亀田医療技術専門学校の看護学生57名。うち最終的には53名が、5ヵ月間パンテーンでヘアケアしながら伸ばした健やかな髪を3月にカットし、その髪を使って9つのウィッグを作りました。9人の女性に「キレイの力」を届けることができたのです。



↑

みんなでヘア・カット

←ヘア・カット直後の看護学生たち
(キャンサーリボンズの理事と一緒に)

看護学生からは「自分だけのものではない髪をいたわろうと思いました」「念入りに髪の手入れをするたびに、髪を活用してくださる患者さんの姿を思いうかべました」「髪を切るときは緊張し少し寂しくもありましたが、新しいヘアスタイルと出会え、患者さんと一緒にキレイになれることを嬉しく思っています」などの声が寄せられました。

また、ウィッグを贈られた女性たちからは「副作用の苦しい中、希望ある日々を過ごせました」「たくさんの方々に感謝しながらウィッグを使うことが治療の励みにもなります」「支えてもらった分、今度は自分が誰かの支えになりたい」など、嬉しい声をいただいています。



↑プロジェクトメンバーと一緒に
←ウィッグのシリアルナンバーが入った記念の鏡を見てにっこり

■企画・運営：NPO 法人キャンサーリボンズ / P&G パンテーン

■ウィッグ製作協力：株式会社スヴェンソン

NPO法人キャンサーリボンズ×P&Gパンテーン 『キレイの力』プロジェクトに、皆さまもご参加ください。 ～パンテーン製品を1つご購入いただくごとに、2円を寄付～

しかし、寄付された髪でウィッグを作るだけでは、圧倒的に数が足りません。ウィッグ製作には費用もかかります。そこで、キャンサーリボンズと、「キレイ」が女性にとって大きな力となると信じているパンテーンは、パンテーン製品を1つご購入いただくごとに2円が寄付され*、100個単位のウィッグを患者さんにお贈りするを旨とする『キレイの力』プロジェクトを始めます。

また、ウィッグをお贈りする以外にも、治療中の女性がん患者さんにとって大切なメイクアップや頭皮ケアなどの情報をお伝えするためのDVDをつくり、全国のがんの専門病院など400施設に配布することを目標にしています。

* (2009年7～10月、2000万円上限)



＜パンテーンクリニケア除く全商品＞

メッセージ

佐藤 禮子 (「キレイの力」プロジェクト委員長)

キャンサーリボンズ理事、兵庫医療大学副学長、日本がん看護学会理事長)

治療中の患者さんの「自分らしさ」を支えるウィッグと、参加の形は違うけれども同じくサポーターである看護学生や皆さまとの心のつながりを、患者さんに届けられたらと思います。一人でも多くの女性の笑顔のために、あなたの活動参加をお待ちしています。

日野原重明 (キャンサーリボンズ特別顧問、聖路加国際病院名誉院長)

「美」は女性にとって、一生、大切で意味のあるものです。企画の趣旨に共感し、参加してくれた看護学生が大勢いたことは嬉しいことです。また、今回支えられた患者さんが、次は誰かを支えることもあるでしょう。看護学生だけでなく、皆さまと共に、日本に新しい寄付の文化を生み出せることを嬉しく思います。



【プロジェクト体制】

岡山 慶子 (朝日エルグループ会長・キャンサーリボンズ副理事長) / 小松 浩子 (聖路加看護大学教授) / 下村祐貴子 (P&G パンテーン広報) / 佐藤 禮子 (兵庫医療大学副学長・がん看護学教授・プロジェクト委員長) 望月 眞弓 (慶應義塾大学薬学部教授) / 山崎多賀子 (がん体験者/美容ジャーナリスト) <五十音順>

『キレイのカプロジェクト』の詳細はこちら

PCサイト

<http://pantene.jp/kireinochikara>

NPO法人キャンサーリボンズの情報はこちら

PCサイト→<http://ribbonz.jp/>

モバイルサイト



これまでに多くの方から髪のご寄付のお申し出をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

しかしながら、ウィッグ用には一定の髪質が必要で、寄付されたすべての髪を活用するのは不可能なため、髪の選別も含めたウィッグ製作には費用もかかること、患者さんの中には不特定多数の方から髪をいただくことに少し抵抗を感じる方もいらっしゃることを、などを考えあわせ、現状では一般の方からの申し出はお受けできません。どうぞご理解いただけますよう、よろしくお願いたします。